

〔書言字考節用集生植篠文選

箆籠尙書箆轄竹類要

〔東雅樹竹タケ略○中倭名抄に○中 篠はノ、箭竹名也と見えしは、即今俗にノダケとも、ヤノタケとも云ひて箭轄となすものは是也、ノとは古語に直を云ひてノといひけり、

〔和漢三才圖會芭木五〕篠竹 篠昆音 箭同

乃和名

按箭篠竹葉大於馬篠、而竹似鳳尾竹、節間長肉最厚硬、用作箭篠甚佳也。出於肥州大村、字書云、篠美竹名可爲矢者是也。

〔古今要覽稿草木〕の やだけ

の、一名のたけ、一名やたけ、一名やのたけは、漢名を箆籠、一名笄箭、一名箭幹竹といふ。○中 天武天皇の御時箭竹二千連を太宰府に送り下せしも、また畿内の產なるべし。今も年ごとに、大和の芳野より難波の大城へ、此竹二千二百幹を貢するよし。紀行採藥 また備中の矢島及び丹波等にも、此竹を産し、その餘の諸國にも、また極めて多し。今江都にて皆人使用するものは、上總より來るといふ、さて延喜の比は、此竹を以て熬箭煤籠及び籠茶籠等を作りしものなれども、今竹器を作るには、多く篠竹、或は箱根竹、或は淡苦の二竹を用ひて此竹を用ゆる事を聞ず。

### 一種矢竹

一種の矢竹は、今松平越中守大塚の下邸にあり、その高さ大抵五六尺にして、枝幹全く矢竹のごとし、葉も亦矢竹に似て、五葉或は四葉を以て一朶とし、その上葉は、すべて二葉相對して、每葉白色間道あり、また一株のうちといへども、間道なくして、その色矢竹と一様なるもの交はれり、此種は往時清俗の攜到せしを、長崎より輸せしものなりといひ傳ふ、その他またこれあることを知らず。

〔延喜式二十八〕年料竹器